



釜小だより

2026年 5月29日
横浜市立釜利谷小学校
6月号



学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamariya/>

横浜開港に思いを馳せて

副校長 松尾 哲博

6月は、一般的に祝日のない月として認識されていますが、横浜市民にとっては「6月も」記念日のある、うれしい月となっています。それが6月2日の「横浜開港記念日」です。

横浜開港記念日は、1859年、横浜港が開港したことを記念する日です。もともと横浜は小さな漁村でしたが、開港を契機に外国との交流が始まり、日本の近代化を支える重要な役割を果たしてきました。異なる文化や技術が行き交う中で、横浜は新しい時代を切り拓く「窓口」となり、現在の国際都市へと発展してきた経緯があります。

開港から160年以上が経ち、横浜には世界のたくさんの国や地域とのつながりができました。それら一つひとつが、今の横浜らしさを形作っていると言えるでしょう。学校においても、子どもたちが教員とともにさまざまな思いや考え方を共有しながら、日々のかかわりの中で相互に理解を深め、学び合っています。

例を挙げますと、「プレクラス」(日本語支援拠点施設「ひまわり」)や、各学校において取り出しや入り込みによる指導を行う「国際教室」の設置によって、安心して学校生活を送ることができるように個にに応じて丁寧に支援しているところです。また、外国人講師とともに学ぶ「国際理解教室」(名前が「国際教室」と似ているのでご注意ください!)をカリキュラムの一部に位置付けて、その国の言葉や習慣、文化を楽しく学びます。こうした学びの一つひとつが、相手を理解したり尊重したりする心の育成にもつながっていると確信しています。

教育の現場以外にも、政治・経済・文化など、あらゆる面でグローバル化が進んでいます。それだけにこの横浜開港記念日は、単に歴史的な出来事を振り返る日であるだけでなく、「新しいものを受け入れること」「学び続けること」の大切さを改めて考えるよい機会でもあると思います。子どもたちが過去の出来事を知ることで、今の社会がどのように築かれてきたのかを理解し、周りの「人」や「もの」に対して関心や感謝の気持ちをもつなど、自分たちの未来を考えるきっかけにしてほしいです。

例年、横浜では開港祭やさまざまな行事が行われ、多くの人々が港に感謝し、まちの歩みを祝います。本校としても、このような地域の歴史や文化に目を向ける姿勢を大切に、子どもたちにふるさとへの誇りを育てていきたいと考えております。今後とも、学校教育活動への変わらないご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

6月 生活目標

安全な生活をしよう

・ろうか(右)がわを静かに歩こう

・雨の日の遊びを工夫しよう